

報告タイトル	橘曙覧記念文学館蔵の橘曙覧遺墨について
報告者所属名	日本文学研究専攻
報告者氏名	王 暁瑞(おう しょうはい)
6 月、橘曙覧関係の資料を収集するため、文化科学研究科国内フィールドワーク派遣を利用して、福井県にある福井市橘曙覧記念文学館(以下に橘曙覧記念文学館と称する)にて研究調査を行った。そして、橘曙覧記念文学館に、橘曙覧真筆の詩幅、短冊、和歌幅、書簡、画賛など十数点及び橘曙覧関係の資料が所蔵されていることをわかり、以下十点の橘曙覧の遺墨資料の書誌情報をとった。 一、橘曙覧書幅「土牀爐足袖衾煖瓦釜泉甘豆粥新萬事不求温飽外漫然清世一閑人」 二、橘曙覧和歌幅「心なき身にもあはれと泣すがる児には涙のかゝらざりきや 西行法師 曙覧」 三、橘曙覧和歌幅／半切「をりをりの夜かれいかにとあやぶみし早あらはしてつれなかる也 絶久恋 曙覧」 四、橘曙覧書簡／一卷／卷子本、表装、三月十日付／岡崎左喜助宛橘曙覧差出 五、橘曙覧和歌幅＋短冊「あだならぬ花のもとにはたえずきて年に稀なる人といはれじ 曙覧」 六、橘曙覧和歌幅＋短冊「鷹狩 手はなべて尾ふさの鈴の音遠しいづこに鷹の鳥ねらふらむ 尚事」 七、橘曙覧和歌短冊「汐ならで朝なゆふなに汲む水も辛き世なりと濡らす袖かな 尚事」 八、橘曙覧和歌短冊「聞鹿 涙だに見せぬ牡鹿の音につれて袖しぼらるる我やなになり 曙覧」 九、画幅／早瀬来山画 女郎花図・橘曙覧讃「花ゆゑは名はたちぬともをみなへし手ふれでたたばいかか過ぐべき 曙覧」 十、橘曙覧筆和歌屏風／六曲一雙 そして、以上十点の橘曙覧の遺墨資料の中から、資料二・資料三の和歌幅二点と資料四の書簡一点合わせて三点に限定して考察し、得られたものを、8 月に、鳴門教育大学が主催、平成 19 年度(第 22 回)鳴門教育大学国語教育学会において発表した。 橘曙覧和歌の研究というような課題研究において、橘曙覧の周辺研究対して、以上のような研究調査により得られたもの及び学会発表により得られたものは非常に重要な一環であると思う。 今回は、上記のものをもって報告する。	